2 各学部の令和6年度FD活動の概要報告

（1）家政学部

1．令和6年度家政学部FD 委員会構成

委員長 ： 須藤良子（ライフデザイン学科）

委　員 ： 原木英一（被服学科） 小清水孝子、深津章子（食物学科） 大谷洋貴（児童学科）
中川まり（ライフデザイン学科）

大妻女子大学ファカルティディベロップメント委員会 ： 中島永晶（家政学部長）

2．授業改善のためのアンケート

令和6年度も、UNIPAを利用してのWEB方式とし、昨年同様、専任教員・非常勤教員ともに原則全科目の実施対象で行った。

前期（実施時期：学期末）・後期（同、学期末）とも同じ設問構成とし、設問数全10問（選択式は6段階）により執り行った。回答依頼は、教員の任意とし、昨年同様、専任教員・非常勤教員ともに原則全科目の実施対象で行った。実施期間は、前期は令和6年7月8日（月）から7月20日（土）までで実施。後期は令和6年12月9日（月）から12月21日（土）までで実施した。

以下、「授業改善のためのアンケート」調査の実施とその集計結果等、概況を記す。

①前後期実施状況

家政学部 回答者数／履修者数 前期：13,237名／30,302名 （回答率43.7%*昨年42.32%）
後期：10,147名／28,118名 （回答率36.1% *昨年35.0%）

②総評：家政学部全体として

「満足度」（Q10）の平均点は、前期4.43、後期4.39であった。前年度は前期4.45、後期4.40だったので、前後期ともにほぼ昨年同様の結果となった。他の設問についても、ほぼ昨年同様の結果となった。

③家政学部全体とアンケート区分別を比較して

「家政学部共通科目」では、多くの設問で全体の平均点を下回り、「管理栄養士専攻専門科目」後期では全体の平均点を上回る設問が多い。

Q7（授業外学修時間）をみてみると、専門科目では0.1ポイント以上高い結果が多くみられた。

④家政学部全体と授業形態別を比較して

「実技」「実験」「実習」が全体の平均点を上回る項目が多い結果であった。「実技」ではQ7（授業外学修時間）は全体の平均点を下回っている。

Q6（授業への参加）をみてみると、全体を大きく上回る授業形態が多いが、「講義」では前後期ともに下回っている。なお、回答者数が100名未満の区分は考察から除外した。

⑤家政学部全体とクラスサイズ別を比較して

例年同様に、「1～15名」が全体の平均点を上回る項目が多く、クラスサイズが大きい程、低くなる傾向である。

Q6（授業への参加）をみてみると、「1～15名」と「16～30名」は前後期ともに0.1ポイント以上高く、「76～100名」後期、「101名以上」で0.1ポイント以上低くなっている。

Q8（教員からのフィードバック）をみてみると、「1～15名」と「16～30名」は前後期ともに0.1ポイント以上高く、「76～100名」前期、「101名以上」後期では0.1ポイント以上低くなっている。

⑥家政学部全体と5学部所属学科専攻別を比較して

「環境情報学」が全体の平均点を上回る項目が多く、「児童学」、「日本文学」、「ヨーロッパ文化」が下回る項目が多い結果であった。

Q7（授業外学修時間）をみてみると、「被服」前期、「食物学」後期と「管理栄養士」前後期、「児童教育」前期、「英語英文学」後期で0.1ポイント以上高く、「児童学」前後期、「日本文学」前期、「社会生活情報学」・「環境情報学」・「情報デザイン」・「ヨーロッパ文化」の前後期で0.1ポイント以上低くなっている。

なお、回答者数が100名未満の区分は考察から除外した。

３．学部専任教員によるFD 報告

今年度も昨年度と同様に、後期授業アンケート結果も示された後、令和7年2月25日に、以下の要領で家政学部4学科のFD委員を通じて、学部教員にFD報告書の作成を依頼した。各教員からFD報告文を回収することとした。

質問項目については、昨年度のものを参考に、令和6年度の状況をふまえ、FD委員会にて検討した結果、以下A～Cの3項目について、自由選択の任意回答とし、一人当たりの総記述量が15～20行（最大800字相当）に収まるよう報告文の作成を依頼した。回収はメールによるものとし、令和7年3月14日受取までを期日として実施した。以下A～Cの3項目の中から自由選択式で、記名入り報告文を各教員からメールにて回収した。

項目A：今年度の授業アンケート実施科目のうち1科目を選択し、その結果を踏まえた次年度以降の取り組みについて記して下さい。

項目B：アクティブ・ラーニング（チュートリアル型または実践体験型）を実施した授業について、その効果や問題点を挙げてください。実施しなかった授業については、それを検討する際に感じた障壁・問題点を記してください。

項目C：ICT（manaba、クリッカー等）を活用した授業について、その効果や問題点を挙げてください。ICTを活用しなかった授業については、活用を検討する際に感じた障壁・問題点を記してください。

４．本年度の家政学部FD 委員会による主な報告・審議事項

令和6年4月19日に、令和5年度「家政学部FD 活動報告書」提出と学部教員への頒布（PDF 方式）第1回家政学部FD委員会連絡及び文書協議（5月21日：①「授業改善のためのアンケート」実施科目（案）の検討）第2回家政学部FD委員会連絡及び文書協議（令和7年1月22日：UNIPAによる「授業改善のためのアンケート」実施結果をふまえた令和6年度FD活動報告書作成に向けての確認）

なお、令和6年度の活動報告の詳細については「2024年度家政学部FD 報告書」を参照されたい。

「家政学部FD報告書」のアンケート分析については過年度同様、株式会社教育ソフトウェアに外部委託し、令和7年2月7日に発注、3月31日に納品された。

５．次年度への課題と引き継ぎ事項

・家政学部としての学部内FD活動の検討と実施（今後のFD活動の在り方の模索と研修企画の立案）

・令和7年度の「授業改善のためのアンケート」の適切な実施のための委員会としての留意事項の確認、ならびに、アンケート結果からのフィードバック等活用についての学部内検討

以上

（２）文学部

１．令和6年度文学部FD委員会構成

委員長：君嶋亜紀（日本文学科）

委　員：木戸雄一（日本文学科）、イケダ・ケン（英語英文学科）、石川千暁（英語英文学科）、川村覚文（コミュニケーション文化学科）、関本紀子（コミュニケーション文化学科）

２．授業に関する意見交換

各学科において、授業の進め方や指導法、学生への対応と情報共有、クラウドを利用した授業資料の共有や共通テキストの検証等、授業に関する意見交換を随時行い、授業の改善に努めた。

３．授業担当者懇談会

例年実施されている授業担当者懇談会は、今年度も予定通り5月11日（土）に各学科で実施された〔日本文学科・英語英文学科：対面、コミュニケーション文化学科：オンライン（Zoom）〕。実施方法は対面とオンラインで各々の利点はあるが、授業の進め方や学生対応、manaba等の教育支援システム、大学の施設・設備等について、非常勤講師と専任教員との間で具体的な情報提供や意見交換がなされた。

４．学科のFD活動（学生懇談会）

文学部では専任教員と学生との懇談会「文学部学生懇談会」を2021年度より開催している。本懇談会の目的は、文学部をめぐる教育・学習環境、授業、学生生活全般に関して、授業改善のためのアンケート等では届かない多様な意見や要望を、学生との懇談を通じて集約することにある。昨年度は学科ごとの開催としたところ、学生が意見を述べやすく、各学科の特性に応じた意見を集約しやすいという効果が認められたため、今年度も同様に学科ごとに実施した。以下、各学科の実施状況について述べる。

日本文学科では、2024年12月19日（木）の昼休みに対面で開催した。学部FD委員2名および日本文学科長が出席し、参加した学生数は7名（4年生4名、3年生3名）であった。

英語英文学科では、2024年11月22日（金）に対面で開催した。学部FD委員2名が出席し、参加した学生数は6名であった。

コミュニケーション文化学科では、2024年12月16日（月）の昼休みに対面で開催した。学部FD委員2名およびコミュニケーション文化学科長が出席し、参加した学生数は13名（4年生5名、3年生8名）であった。

事前広報として、学科ごとにmanabaのコースニュース配信やポスターの作成・掲示、授業時の案内等を通じて学生への周知に努めた。また昼休みに設定し、事前の申し込みは不要として気軽な参加を促した。なお、各学科の懇談会には企画・戦略室より1名参加された。

学生との懇談は例年同様に自由討議形式とした。参加した学生からは、授業、教室や図書館等の学習環境・設備、学食やロッカー・事務手続きなど学生生活に関わること等、具体的で多様な意見・要望が提示され、充実した懇談会となった。対面で直接、学生の視点からの声を集約するという点で、教員にとっても気づきの得られる、大きな意義のある活動であった。

懇談会を通じて学生から得られた意見・要望等は、「2024年度大妻女子大学文学部FD活動報告書」において学科ごとに項目にまとめ、文学部長、日本文学科長、英語英文学科長、コミュニケーション文化学科長、文学部教務委員長、文学部学生委員長、教育支援センター部長、学生支援センター部長に報告した。内容を共有いただき、今後に向けての検討、改善に活用いただけると幸いである。

５．学会活動

対面授業が全面的に復活し各種行事等も再開される中、各学科の学会活動も活発に行われた。以下に列挙する。日本文学科：2024年7月4日（木）国文学会総会・ワークショップイベント、同年9月26日（木）卒業論文中間発表会、同年12月17日（火）国文学会例会。英語英文学科：2024年6月3日（月）総会（紙面）、同年10月22日（火）秋季例会、同年12月17日（火）レシテーションコンテスト、2025年1月29日（水）卒業論文発表会。コミュニケーション文化学科：2024年4月5日（金）新入生オリエンテーション・歓迎会、同年6月10日（月）総会・講演会、同年11月12日（火）例会（プレゼンテーション大会）、2025年1月28日（火）例会（卒業論文発表会）。

６．授業改善のためのアンケート

例年実施されている「授業改善のためのアンケート」は、今年度も前期と後期の2回、前期は7月8日（月）から20日（土）、後期は12月9日（月）から21日（土）の期間に学内ポータルサイトUNIVERSAL PASSPORTにてオンラインで実施された。アンケートの実施対象としては、これまでの方針に従い、特殊な実施形態の科目（卒業論文・ゼミ・オムニバス等）や少人数履修者科目のような例外を除いて、原則として全ての授業を対象として実施された。

資料「授業改善のためのアンケート集計結果（文学部全体）」に示されたアンケート回答者数および回答者数の受講者数に占める割合（以下、回答率）は次の通りである。アンケート回答者数（括弧内は昨年度、以下同）は、前期10,897（10,773）名、後期8,677（8,909）名、前期と後期の回答者数を合算した総数は19,574（19,682）名であり、昨年度より前期はやや増加、後期および総数はやや減少している。また、回答率を見ると、前期は45.15（45.13）％、後期は38.30（38.25）％、平均して41.83（41.69）％と昨年度より微増しており、前期・後期・平均といずれも36～37％台であった一昨年（2022）度と比べると昨年度から増加傾向を維持している。これは昨年度に続きコロナ禍以降のリモート授業から対面授業への切り替えが進んでいることも関係していよう。設問2によると、2024年度に対面で実施された授業は、前期80.4（69.9）％、後期80.9（70.5）％となっている。定期的に登校し教員や他の学生と学びの場を共有する中で醸成されている授業への主体的な参加姿勢がアンケートの回答率にも反映しているものと推測される。なお、前期に対して後期の回答者数・回答率が減少する傾向は昨年度と同様であった。後期アンケート実施期間の12月が年末の行事等も多く慌ただしい時期であることも関係するのかもしれない。とくに後期の授業時等の周知を意識するとよいと思われる。今後も、学生の主体的な授業参加に繋がるよう、回答者数と回答率の増加傾向を維持すべく、アンケートへの積極的な回答を促す方法を検討していきたい。

なお、具体的な設問に対する回答結果としては、設問3、4、6～10の文学部の全体平均値は前期4.16（4.16）、後期4.13（4.14）、このうち授業の進め方、教員の工夫やフィードバック、学生自身の積極的な参加や学修成果等を問う設問3、4、6、8、9の平均値が4点台、設問10の授業に対する満足度の平均値は前期4.43、後期4.41と、昨年度同様に全体を通じて一定程度の高い評価が示された。詳しくは「2024年度大妻女子大学文学部FD活動報告書」において学科ごとに分析する。

以上

（３）社会情報学部

１．令和６年度社会情報学部ＦＤ委員会の構成

委員長　若林佳史（社会生活情報学専攻）

委　員　山田幸三（社会生活情報学専攻主任）、
大橋寿美子（環境情報学専攻主任）、木村ひとみ（環境情報学専攻）
田中清（情報デザイン専攻主任）、宮崎美智子（情報デザイン専攻）
原田龍二（語学代表）

オブザーバー　関えいこ（学務助手：庶務・記録）。

２．令和６年度のＦＤ活動の概要

今年度は社会情報学部が組織的な FD 活動を開始してから 23 年目にあたる。これまでの活動の成果を継承しつつ、社会情報学部 FD 委員会を計 9 回（令和 6 年 4 月 10 日、5 月 8 日、6 月 12 日、7 月 10 日、10 月 9 日、11 月 13 日、12 月 4 日、そして令和 7 年 2 月 5 日、3 月 4 日）開催し、多彩な FD 活動に取り組んだ。また、Google Drive 上の共有フォルダも活用し、より緊密な情報共有・意見交換に努めた。

なお、活動の詳細については、『令和 6 年度社会情報学部 FD 活動報告書』にて報告する。

以下、箇条書きにて各活動について概要を記す。

①入学時の学生生活調査

令和 6 年 4 月 1 日～4 月 30 日実施。

新入生に対し、Google フォームを用いてアンケート調査を行った。

質問項目は、入学の目的その他。

②特定枠プロジェクト研究への助成

令和 6 年 4 月 17 日～5 月 6 日募集。

磯山直也・木下勇「スクリーンタイムからグリーンタイムへの情報デザイン PBL プログラムの試行」に助成した。

③より良い授業評価アンケートのための教育活動

令和 6 年 4～7 月実施。

新入生に対し、基礎演習（「社会生活情報基礎演習」「環境情報学基礎演習」「情報デザイン基礎演習」）において、「授業評価アンケート」の目的や意義などについて解説を行った。

④教員相互の授業公開および参観

令和 6 年 6 月 10 日～7 月 13 日実施。

公開する授業は、本学部教員の担当する授業（オンライン授業を除く）すべてとした。

⑤FD 研修会

令和 6 年 10 月 30 日実施。

講演：若尾翠氏（学生相談センター）「障害の基礎知識と学生の特性に応じた接し方」

当日欠席者は録画を視聴。

⑥FD 研究会

令和 6 年 10 月 30 日実施。

昨年度助成を行った「特定枠プロジェクト研究」2 件の報告会を行った。

報告１：木下勇・磯山直也「環境と情報の連結による学生の主体的学びと社会への情報発信への PBL プログラムの開発」

報告２：市村哲・中野希大「本学におけるメタバース活用のノウハウ獲得」

⑦卒業時の学生生活調査

令和６年 12 月２日～令和７年１月 31 日実施。

卒業予定者に対し、Google フォームを用いてアンケート調査を行った。

質問項目は、大学生活の満足度その他。

⑧教員と学生の意見交換会

令和７年１月８日実施。

テーマは「入学の目的からみた社会情報学部の教育内容の評価」。

⑨休講の状況の把握

令和６年度における休講およびそれに伴う補講の状況について把握した。

⑩「授業改善アンケートに関する教員のご意見」集の作成

各専任教員から令和７年２月～3 月に受け取った「授業評価アンケートに関する意見」をまとめた。

⑪履修登録の抽選（受講者調整）に関する状況の把握

⑫他大学の学生参画型 FD 活動に関する資料収集

⑬オフィスアワーの設定

昨年同様、対面形式とオンライン形式を併用したオフィスアワーを設定した。いずれの場合でも 90 分の教員のアクセスを確保することとした。

⑭『令和６年度社会情報学部 FD 活動報告書』の作成

令和７年５月に完成。

３．来年度に向けての課題

Google フォームを用いて調査を行うようになってから、入学時の学生生活調査および卒業時の学生生活調査の回収率が著しく低下した。この改善が喫緊の課題と考えられる。そのほか履修登録の抽選をめぐって生じている問題への対策や、授業評価アンケートの結果の学生へのフィードバックについても今後一層の検討を要する課題といえよう。

（４）人間関係学部

１．令和６年度人間関係学部 FD 委員会構成

齊藤豊（人間関係学部学部長）　福島哲夫（人間関係学科長）　上野優子（人間福祉学科長）
小谷敏（人間関係学科社会学専攻）　三好真（人間関係学科社会・臨床心理学専攻：人間関係学部 FD 委員長）飛田和樹（人間福祉学科）

２．令和６年度人間関係学部 FD 活動一覧

・オフィスアワー　原則、対面で実施
・授業担当者懇談会
　（社会学専攻）令和６年５月 25 日
　（社会・臨床心理学専攻）令和６年５月 25 日
　（人間福祉学科）令和６年５月 25 日
・人間関係学部 FD 研修会（人間関係学部 FD 委員会主催）　令和６年 12 月６日
・保護者懇談会　令和６年 10 月 19 日
・学友会代表と FD 委員会・教職員との懇談会　令和６年 12 月６日

３．各 FD 活動の内容

①オフィスアワーの実施

学生が事前の予約なしに気軽に教員の研究室を訪ねることができる時間帯という趣旨で、本学部では全ての専任教員がオフィスアワーを設定し、大学の UNIPA でこれを公開している。本年度は基本対面で一部オンラインの組み合わせにより実施した。

②授業担当者懇談会の実施

例年前期に実施している非常勤講師の先生との授業担当者懇談会を今年度も５月 25 日に実施した。教育懇談会の内容については、令和６年度人間関係学部 FD 報告書の中で詳しく紹介されている。

③人間関係学部 FD 研修会の実施

12 月６日に「研究と教育への新たな展開～多様な技術を活かす方法～」という全体のテーマのもと、3 つの分科会にわかれ、それぞれの対面の座談会形式で話し合われた。3 つのテーマは「授業の展開の方法～AI ツールの活用など～」「教員の研究と大学教育の両立や展開の方法」「ゼミの指導方法～授業の展開の方法、活動内容、キャリア教育など～」である。研修会の内容と参加者の意見については、令和６年度人間関係学部 FD 報告書の中で詳しく紹介されている。

④授業改善のためのアンケートの実施

令和６年度においても、前期・後期の年２回、学生による授業アンケートを実施した。授業改善のためのアンケートも実施しており、令和６年度人間関係学部 FD 報告書の中で詳しく紹介されている。

⑤学友会代表と FD 委員会・教職員との懇談会の実施

教育の質の更なる向上に向けて、令和６年度においても、12 月 15 日に学友会代表と学友会委員の学生との意見交換を行った。意見交換の内容については、令和６年度人間関係学部 FD 報告書の中で詳しく紹介されている。特筆すべきは、忌引きに対する欠席の扱いであるが、学生と学部教職員と今後も相互理解を深める方針である。

⑥各種委員会との連携

学生の教育内容・教育環境の向上のためにはFD 委員会による取り組みだけでは不十分であるため、教学面の管理を担当する教務委員会、英語教育運営委員会、就学環境全般の改善を目指す学生委員会、健康面をサポートする保健管理委員会等の各種委員会が教授会・学科会議等の場で報告する事項を参考にしながら、FD活動の一層の充実を図っている。

その他、より良い授業を目指すための環境やメディアに関する設備等に関して各事務部署と連携を取っている。

⑦各学科・専攻におけるFD 活動の内容の共有

教育方法に関する配慮・工夫に関しては、基本的にそれぞれの学科・専攻の専門的な判断にゆだねられるべき領域であるが、同時にある教員・ある専攻が行っている取り組みが、専門性の垣根を超えた普遍性を持つ場合もあり、そのような参考にすべきノウハウについては、学内の様々な機会を利用して全教員が共有できるようにしている。昨年に引き続き、対面で行われた人間関係学部FD委員会主催の研修会では、他学科・他専攻の教員がそれぞれの研究や授業に対する内容を積極的に共有しており、引き続き今後の教育内容の向上につなげることを期待している。上記にある通り、研修会の詳細は令和6年度人間関係学部FD報告書の中で詳しく紹介されている。

⑧クラス担任制度

本学部においては、ほとんどの専任教員がいずれかのクラス担任として学生の指導にあたっており、このシステムが学生の教育効果を高めるうえにおいても大きな効果を発揮している。令和6年度人間関係学部FD 報告書の中でも各教員が1年間のクラス担任としての活動を振り返って、今後の取り組みにつながるような提言や意見交換を行っている。

以上

（５）比較文化学部

本学部では主に、１ 授業改善のためのアンケートの実施、２ 授業担当者懇談会、３ 父母・教員懇談会、４ オフィスアワーの実施に取り組んだ。

紙幅の関係で、以下では主に①について詳細に報告する。

１.「授業改善のためのアンケート」実施について

①アンケート実施時期と実施方式

今年度は以下のような方法で実施した。

【前期】

期間： 令和６年７月８日(月)～7月20日(土)

方法： 全ての対象科目において、学生はUNIPAからアンケート回答ができる。
授業担当者は該当科目の履修者に回答をうながす。

【後期】

期間： 令和６年12月９日(月)～12月21日(土)

方法： 前期と同様

昨年度と同様に、いずれも、アンケート実施期間の開始がUNIPAから学生に通知され、学生はUNIPAへログインしてアンケートに回答した。

アンケートの質問数は短時間で回答することができるように原則６段階評価による全10問の選択式にした。

②実施対象：原則、ゼミを除く全授業で実施

比較文化学部では、原則として演習授業（3年次必修の比較文化演習ならびに4年次必修の比較文化セミナー）を除くすべての科目でアンケートを実施した。

③実施科目の受講者数と有効回答数

アンケート実施科目の累計受講者数は、前期20,510名、うち有効回答者数9,210名（回答率44.9%）であった。後期アンケート実施科目の累計受講者数は19,475名、うち有効回答者数7,489名（回答率38.5%）であった。

④集計

回答の集計処理は外部業者に委託した。業者からは全体および各授業別の集計結果だけではなく、所属学科・学年・授業方法（演習・講義等）・職名（専任・兼任）・クラスサイズ・担当教員年齢・授業形式（対面／オンデマンド等）・授業区分（教養・専門）・言語（スペイン語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・英語・韓国語・中国語）別の集計結果を得た。

⑤アンケート結果の伝達

授業単位の集計結果は、学生の回答期間終了後に担当教員がUNIPAで直接確認することができる。アンケート回答結果が閲覧可能になった時点で、UNIPAを通じ、授業担当教員にその旨を告知した。

⑥教員からのフィードバック

上記集計結果について告知する際、集計結果に対する意見や感想の執筆を全教員に対して依頼した。その際、これまではメールや文書により意見や感想を集約していたが、今年度からグーグル・フォームの回答に一元化した。

前期は専任教員８名、非常勤教員６名の計14名から、後期は専任教員４名、非常勤教員５名の計９

名から回答があった。

⑦一連のサイクル実施の報告

PDF 形式で FD 報告書を年度末に公刊している。

⑧公開するアンケート集計結果について

アンケートの集計結果はそのまま別紙比較文化学部 FD 委員会報告書に公開する。学生による意見・感想（設問 1）は、非常に示唆的なコメントが見られる一方で、ときとして感情的な発言も散見されるため、昨年度同様に掲載を見送る。教員による所感・感想は、学生のコメントに対する応答であるため、表記統一と誤字脱字の修正を除き、原則として編集せずに掲載する。

アンケートが Web 上で実施された結果、教員は自身の集計結果について即座に確認することができるようになった。ただし、類似する他の授業―たとえば同じ言語の他の授業、同じカテゴリの専門科目など―にも同様の集計結果が共通して得られるものかどうかは、にわかには確認しづらくなった。そこで、上記報告書には、専門科目・言語別のアンケート集計結果を掲載する。

２．授業担当者懇談会

本学部では、非常勤講師と専任教員で、授業担当者懇談会を令和 6 年 5 月 11 日（土）に対面で実施した。

３．父母・教員懇談会

本学部では、保護者と専任教員で、父母・教員懇談会を令和 6 年 11 月 9 日（土）に対面で実施した。

４．オフィスアワーの実施

本学部では学部のホームページ上の教員紹介各ページにオフィスアワーを掲示し、学生の学業面、生活面などのサポートを行なっている。

その上で、学生には以下のように URL とともに周知している。

「学生が教員の研究室を訪ねやすいように空けてある時間がオフィスアワーです。オフィスアワーの時間はアポイントメント不要です。相談したいことがあれば、下記の学部ホームページの各教員のページから曜日と時間を確認して、気軽に研究室を訪ねてください。」

以上

（６）短期大学部

１．はじめに

短期大学部 FD 委員会は家政科 3 専攻からそれぞれ 1 名、国文科から 1 名、英文科から 1 名の計 5 名の専任教員によって構成されている。令和 6 年度委員会では、前年度に引き続いて以下①から⑦の項目を中心に FD 活動の実施・検討を行った。なお、来年度からの短期大学部の縮小を受け、項目⑦「FD 講演会、FD 研修会」の実施方法の変更を、今年度、実験的に試みた。「FD 講演会」は短期大学部としては行わず、全学 FD 委員会主催の年 2 回の講演会への参加に振り替えとし、また、「FD 研修会」は、その主目的である在校生からの意見収集を、各学科専攻独自の現状に即した方法で行うものとした。

① 授業改善のためのアンケート　② オフィス・アワー　③ ホームページ　④ 保証人との懇談会
⑤ 授業公開　⑥ 学習支援活動　⑦ 全学 FD 委員会主催講演会への参加、FD 研修会の学科独自開催

２．令和 6 年度の FD 活動の概要

活動の詳細は、令和 6（2024）年度 FD 活動報告書第 22 号Ⅱ章以降に掲載し、ここにはその概要を記す。

①「授業改善のためのアンケート」について

今年度も、FD 基幹活動として、短期大学部開講科目受講者を母集団とする「授業改善のためのアンケート」を実施した。昨年度に引き続き、設問数は全 10 問で、実施は学内ポータルサイト「ユニバーサルパスポート（以下 UNIPA）」を利用してオンラインで行うものであった。アンケートの実施期間は、前期が令和 6 年 7 月 8 日（月）～7 月 20 日（土）、後期が令和 6 年 12 月 9 日（月）～12 月 21 日（土）である。アンケート期間終了後に各教員が UNIPA で回答結果を確認し、内省することになっている。

②オフィス・アワーについて

専任教員が各自オフィス・アワーを設定し、ホームページやシラバスに掲示して周知に努めた。この時間も利用して、学生の学習支援・生活支援・進路指導などに取り組んだが、感染症等に配慮して、今年度も E メール等の併用で可能な限り対応し、この時間以外であっても対応を重ね、きめ細かな支援を心掛けた。

③ホームページについて

昨年度の短期大学部ホームページのリニューアルで明るい基調のデザインに一新したが、依然、ホームページ閲覧のための入り口が学院ホームページからのリンク、日本短期大学協会からのリンクしかない。より多くの閲覧数を獲得するためには、エントランスポイントの増加が必須である。

昨年度は SEO 対策として、より検索されやすくなるように、サイトのキャッチフレーズに「東京の短大で栄養士になる／家政・ビジネスを学ぶ」といった文言を追加したが、トランスポイント数の増加は進んでいないことから、昨年度より検討を進めている検索キーワードとの連動広告などに関し、引き続き、全学的な調整の必要性を上申することとしたい。

④保証人との懇談会について

令和 6 年度は、家政科 3 専攻が保証人との懇談会を実施した。

家政専攻では、学科専攻説明、クラス担任と保護者との懇談に加え、教務関係、資格関係、編入・就職活動など専攻で実施しているサポート内容をスライド、資料配布で紹介した。

生活総合ビジネス専攻では、教職員の紹介、専攻・資格の説明、成績表の見方、編入、就職について、視覚的資料に基づいて説明した。さらに、同日保証人懇談会に先んじて開催した「卒業生からのアドバイス」を撮影し、その動画で、1 年生の就職活動のイメージを確認してもらった。最後に専攻主任から

令和 7 年度以降の本専攻募集停止について報告した。

食物栄養専攻では、教員との懇談会、及び、同日開催していた学生主体の「校外実習報告会」の参観を実施した。保護者から学生に関する様々な情報を得ることができ、良い交流の機会となった。

なお、国文科、英文科は学科全体での懇談会は実施していない。

⑤授業公開について

今年度も、短期大学部各学科で授業公開を実施した。家政科では専任教員全員 16 名が授業を公開し、国文科と英文科では専任教員 1 名が授業を公開した。実施後は、公開担当者および参観者にアンケートを実施した。参観者のアンケート結果は授業担当者にフィードバックし、今後の授業の改善に繋げた。

⑥学習支援活動について

学力面や生活面で多様な背景を持つ学生たちが学ぶ短期大学部では、学生の状況や個性をふまえ、柔軟かつ積極的な支援を行っている。今年度もそれぞれの学科・専攻において、工夫を凝らした支援活動が実施された。個別の指導においては、クラス指導主任を中心に、副担任助手のほか、教育支援グループや学生支援グループ、学生相談室カウンセラーと連携して問題解決にあたった。

⑦短期大学部主催 FD 講演会・FD 研修会について

今年度からの短大独自の FD 講演会については、短大教授会での承認の元、縮小し、今年度は全学 FD 委員会主催の年 2 回の講演会に参加するのみとした。特に後期の講演会では、工夫された実施形態のおかげで短大独自の課題を、学科を越えて検討する機会が得られ、あらためて、短大の課題としての共通点と学科ごとの課題の相違点、ならびに、共通課題に対する認識を共有する良い機会となった。

また FD 研修会も同様に、各学科専攻の現状に合わせてそれぞれ独自の方法と時期を設定して開催した。家政科食物栄養専攻は 2 年生全員にアンケートを実施し、家政科生活総合ビジネス専攻は聞き合わせの会を設けた。国文科、英文科は、直接、個別に学生に聞き合わせた。結果、在籍者数の少なさも相まって、例年とは異なり、ほぼ全数調査の様を呈することとなった。結果、学生から、学生生活、講義方法、学習参加に関する工夫に関して活発な意見が寄せられ、多くの示唆が得られた。

今年度の試みの結果から、この方法でも、振り返りの機会として、十分、機能するものであると考えられたが、次年度以降も今年度の実施方法を継続するかは、次年度の委員会で再度検討することとする。